

図書館資料としてのフリーペーパー論 A Study on Free Papers as Library Materials

東 野 善 男

HIGASHINO Yoshio

【要約】

本稿では、図書館資料としてのフリーペーパーの意義について論じている。これまでのフリーペーパーは個人で使われてきた経緯があるが、近年は、図書館関係者にもフリーペーパーを図書館で収集する意義があるという認識が広まりつつある。今後、図書館資料として受け入れられるにあたっては、その内容の質が問われることになる。一時的な利用価値しかないフリーペーパーも多く存在するが、中には有用な情報を含むものもある。有用な情報とは、第一に研究調査の上で参考になる情報、第二に地域に関する情報である。公共図書館における受け入れ推進を図るためには、図書館司書課程で使用する教科書においてフリーペーパー関連の記述を増やすことが重要である。次世代の図書館司書がフリーペーパーを図書館資料として保存していくこと、その利用価値に対する認識を高めることが必須になってくる。

キーワード フリーペーパー 小冊子 図書館情報資源概論 司書課程 教科書

1. はじめに

フリーペーパーと言えば、かつては「友達と飲食店探しの情報源として使う」「付近の家賃相場を調べる」「アルバイトを探す」には便利な媒体と認識されていた。そのためか、街頭や駅で配布していたクーポン誌やタウン情報誌を想像することになる。

ところが、福岡県の福岡市東図書館^(注1)では、フリーペーパーが入り口すぐの書架に並べられている。しかも約 50 種を揃え、充実している。代表的なものをいくつか挙げてみよう。

『フリースタイルな僧侶たち』（誌面編集長：若林唯人）

『縄文 ZINE』（編集発行人：望月昭秀）

『月刊島民』（編集・発行人：大迫力）

『雲のうえ』（発行：北九州市にぎわいづくり懇話会）

『TOMOS』（発行：NPO法人はあとスペース）

『Have a nice PHOTO!』（発行：株式会社シー・エム・エス）

いずれのフリーペーパーも、かつてとは変容した内容である。新聞記事^(注2)によると、川元分館長は「発行者の一押しがコンパクトにまとめられているのが魅力」と語り、利用者からも「目を引く鮮やかな表紙のものが多く、読んでみたいと思う」「図書館にまとめて置いてあると便利」と好意的にとらえられている。図書館を指定管理者として運営している紀

伊国屋書店の担当者は、「良質な情報を無料で読むことができる日本の誇るべき文化。資料価値もあり保存拠点を提供したかった」と述べる。

はじめに、本稿を書くきっかけとなった公共図書館の事例を紹介した。さて、このようにフリーペーパーが、街なかではなく、図書館、特に公共図書館において違った様相を見せている。本稿では、図書館資料としてのフリーペーパーの意義について論じる。

2. フリーペーパーとは何か

2.1 フリーペーパーと小冊子の定義

はじめにフリーペーパーの定義を複数の文献を基に確認し、次にその類似資料とも言える「小冊子」関連の定義と比較することで、フリーペーパーを総体的に捉えてみたい。

日本生活情報紙協会（JAFNA）^(注3)によれば、特定の読者を狙い、無料で配布する定期発行の地域生活情報紙誌で、イベント、タウン、ショップ、求人求職、住宅・不動産、グルメ・飲食店、ショッピング、演劇、エステ・美容、レジャー・旅行、各種教室など多岐にわたる生活情報を記事と広告で伝えるものである。この定義は、一般に想像する各種PR媒体としてのフリーペーパーに近いと思われる。

稲垣^(注4)によれば、フリーペーパーとは、無料で配られる印刷物であり、広告収入だけで経営が成り立っているものと呼んでいる。さらには、一般記事が全体のなかで一定の割合に達していることも条件となる。この定義は、広告よりも、記事を強調しており、新しい媒体としてのフリーペーパーに近づいている。

松井^(注5)によれば、読者から料金をとらず、広告収入のみで運営されており、新聞スタイルだけではなく雑誌スタイルのフリーマガジンも含めてフリーペーパーと総称されることが多い。ここに至ってはフリーペーパーの範囲がより広がったことで、発行者の自由度もまた広まったと言える。

3つの定義からは、主として無料という共通点だけでなく、判型、読者層、カテゴリー、配布という要素があることが分かる。一元化した流通方法がなく、配布方法としては、街頭での配布、駅や店舗での設置、新聞折り込み、ポスティング（戸別配布）と多様性に富んでいる。選択肢の一つとして公共施設も少しずつ増えてきてはいるが、図書館が明記されることは珍しい。

一方でその図書館内には、「小冊子」あるいは「パンフレット」^(注6)と図書館司書が総称する印刷物がこれまでも存在している。「図書」と区別され、概ね100ページに満たない出版物が多く、製本は簡易である。最近は、「リトルプレス」という呼称もあるが、その中には無料のフリーペーパーだけではなく有料の雑誌も含まれる。ソトコト^(注7)には、『itona(いとな)』と『スピニー』が富山県のリトルプレスとして紹介されている。また「文化誌」という別の呼び方もある。例えば、d47 MUSEUMが2014年に開催した展示会「文化誌が街の意識を変える展」では、47都道府県毎に1冊の文化誌を選び展示しているが、富山県では『itona(いとな)』^(注8)が選ばれている。このことでも分かるように、同一タイ

トルでも一方では「リトルプレス」、一方では「文化誌」と呼称の異なるケースが見られる。言葉の定義だけ見ても一般的な認識として判別がつきにくい。

柿沼^(注9)によれば、「図書」は、図書館の名称から明らかなように、その中核となる資料である。一方で、書店で買うことができず、発行者が無料で配る、あるいはわずかな値段で売るもので、仮製本かつページ数の少ないものは「パンフレット」と認識されている。1980年代にフリーペーパーという言葉は流布していなかったと思われるが、柿沼の言う「パンフレット」にはフリーペーパーが含まれると考えるのが妥当である。同時にその薄さと、値段の安さゆえに、そこに大事なことが書かれてあっても、個人であれば保存する意義を感じることなく、捨ててしまう点も指摘している。

2.2 フリーペーパーの具体例とその活用

一般に街なかで入手するのであれば問われないが、公共図書館でフリーペーパーを入手するにあたり、筆者は次の2つの情報を含んでいるかどうかを注視する。一つ目は研究調査の上で参考になる情報、二つ目は地域に関する情報である。フリーペーパーは、一時的な利用価値しかない内容も多いが、中には「図書」では詳しく取り上げられない貴重な情報も含まれている。また、最新の情報を載せており、特に地域の関係者に関する情報はこれに負うところが大きい。

リサーチ・ナビ^(注10)で紹介されている2種類のサイト「FREEPAPER NAVI (フリーペーパーナビ)」と「フリーペーパー・タウン誌ネットワーク Unyo! (うによ)」を利用し、検証してみよう。

例えば「1. はじめに」で紹介した『フリースタイルな僧侶たちのフリーマガジン』。略してフリスタは、両サイトに登録されており、簡単に内容が紹介されている。

フリーペーパーナビによれば、次の通りである。

私たちは、伝統的な宗派の垣根を越えて、人々の不安に寄り添うために、フリーペーパーを作ってメッセージを発信します。志を同じくするプロのライターやデザイナーたちの協力をいただき、スタイリッシュでわかりやすく仕上げた誌面は、きっと仏教と縁のない人々にも読みやすいものと信じています。今日も、できあがったフリーペーパーを片手に、お坊さん自ら街中へ繰り出しています。

一方、Unyo! (うによ)によれば、次の通りである。

仏教の未来に挑戦する情報誌として、「お坊さん＝お葬式」というイメージが定着しています。しかし、仏教にいま求められているのは、お葬式だけのお寺とのつきあいではなく、先行きが見えず生きにくい社会を、心安らかに生きられる社会に変えて欲しいということではないでしょうか。私たちは、その期待に応えるために、既成概念に固執することなく、日本仏教のあり方をフリースタイルに見つめ直していきます。

フリスタは、遊び心のある表紙など親しみやすさに工夫をこらす一方で、応用仏教学を主張する熊谷誠慈京都大学特定准教授を代表とする硬派な記事も掲載している。研究調査の過

程において、その誌面から得る情報により、閃きを持つ瞬間が期待できる。

地域に関する情報については、両サイト共、都道府県別に閲覧することができる。ここでは、富山県を例に検索してみよう。

フリーペーパーナビによれば、『BonNo (ボンノ)』『Favo (ファーボ) [富山版]』『富山情報』『ふみたん』『Favo 呉西版』の 5 誌が確認できる。ただし、『ふみたん』『Favo 呉西版』の 2 誌はサイトでは存在していることになっているが、現在は休刊となっている。

一方、Unyo! (うにょ) によれば、『認知症情報誌 Almma』『Highway Navi』『まんまる』『02Magazine (ゼロニィ)』『ゆらんぷらす』『Favo (ファーボ) [富山版]』『富山情報』の 7 誌が確認できる。

更に『BonNo (ボンノ)』^(注 11) について詳細に見てみる。その内容はフリーペーパーナビによれば、次の通りである。

「美味しいものが食べたい」「快適な暮らしがしたい」「もっと楽しく生きたい」そんな生きる原動力をサポートするのが、もっと愉しく生きるための地域情報誌「BonNo」です。グルメ、ファッション、カルチャーから地域に密着した情報、フリーでは得られない特別な情報、など数多くの「面白いコト」を地域の皆様へお届けいたします。人生は、きつともっと楽しくなる。

『BonNo (ボンノ)』は、ビッグカントリージャパン株式会社(石川県金沢市)が 2011 年に創刊、石川・富山・福井の地域情報を満載した地域情報誌である。毎月 1 回 5 万部を発行し、石川・富山・福井県の大型ショッピングセンターやスーパー、書店等 2,500 箇所以上に設置している。Vol.80 (2018 年 5 月号) の大特集「マンガの話をしようよ。」では、14 ページにわたって映像クリエイターからローカルアイドルまで北陸で活躍する 24 名が愛読していたマンガや思い出の作品 70 冊を紹介している。その他「書店員に聞く、北陸ゆかりのマンガ」「マンガが読めるランチの店」を掲載しているが、いずれも地域に関して他の媒体では詳しく取り上げられない貴重な情報であると言える。

両サイトに登録はないが、「1. はじめに」で紹介した『Have a nice PHOTO!』^(注 12) の中では、富山の人が県外のお客様に対してよく使う言葉を紹介している。概要は次の通りである。

「なあーん、富山に来ても見るとものちゃ何もないわ」(訳*いえいえ、富山に来られても見るとものなんて何もないですよ)。もちろんこの言葉は真実ではなく、富山には見るべきものや味わう文化が山ほどある。実際、蔵の中を見せてもらい、そのお宝に驚けば、「こんな珍しいがかいね。それなら沢山あるわ」と答える点は、奥ゆかしさを美德とする土地柄を感じさせる。続けて「そんな普通やねか」(訳*そういうものは普通にありますよ)と言葉を返される。

富山の特徴を県外者に説明する例としては実に有効で、興味深い記事ではないだろうか。しかし東京都で発行されているため、富山県内での入手は限られてしまうのが現状である。どこで出会うかという場所を問われれば、それが図書館であっても構わない。図書館は人と

資料が出会う場であり、その仕組みを構築するのが図書館司書である。

2.3 公共図書館とフリーペーパーの関係事例

富山県内外のメディアで紹介されたフリーペーパーと図書館の関係について、配布、展示、保存の3種類の事例に従い確認しておく。

2.3.1 フリーペーパーとその配布

新聞記事^(注13)によれば、魚津市地域おこし協力隊の2名が市内の10代の声を地域に伝えるフリーペーパー「1ON(オン)！」を2018年に創刊した。500部を製作し、市内の高校やショッピングセンター、さらには魚津市立図書館に配布している。創刊号(2018年10月10日号)には、魚津市立図書館の館長お勧めの本やT S U T A Y A魚津店お勧めのDVDが紹介されている。フリーペーパーを図書館に配布するという発想は珍しいものではないが、図書館側に継続して収集するという考え方がなければ実現が難しくなる。

2.3.2 フリーペーパーとその展示

奈良県の奈良県立図書情報館では、図書館イベントとして図書展示「想いを届けるローカルメディア2018」(2018年9月28日から10月30日まで)を館内で実施した。展示したローカルメディアに関する資料^(注14)など約150冊には、図書館所蔵のフリーペーパー14点が含まれている。例えば、郷土資料として『コトノハ：奈良のフリーペーパー』や災害防災文庫として『Now is：ナウイズ』を所蔵している。フリーペーパーの存在がこれまでとは違った様相を見せ始めている。

2.3.3 フリーペーパーとその保存

山口県の山陽小野田市立中央図書館では、イベントに力を入れる一方、地域資料の収集にも工夫を凝らしている。新聞記事^(注15)には地域のフリーペーパーも保存していると書いている。山本館長は、何げない情報も100年後には当時の物価や給料を知る資料になるという視点を大事にし、図書館に秘められた様々な可能性を楽しみつつ模索しているようである。このような図書館長の哲学は、図書館司書に反映され、フリーペーパーを図書館資料として認識しているがゆえに、継続的に収集されている好例である。

世の中には調査研究のために、フリーペーパーが必要な人もいる。フリーペーパーが研究調査の際に必要なとき、図書館で簡単に入手できれば、利用者は図書館の存在意義を今以上に認めるだろう。そのプロセスを図書館司書が認識するためには、フリーペーパーの存在だけではなく、フリーペーパーの図書館での活用事例を知ることが大切になってくる。

そこで、図書館司書課程で使用する教科書ではどのように扱われているのかを現状分析してみる。

3. フリーペーパーと図書館司書課程

3.1 図書館司書課程で使用している教科書

ここでは、全国で 203 校ある司書養成科目開講大学^(注 16)のうち中部地方の短期大学に絞って調査した結果を表 1 のようにまとめている。中部地方 9 県のうち、新潟・福井・山梨の 3 県を除く、富山(1)・石川(1)・長野(3)・岐阜(1)・静岡(1)・愛知(2)の 6 県に、合計 9 短大がある。なお、表中 No. 1～9 の順序は文部科学省の一覧に従っている。

1	上田女子短期大学	図書館情報資源概論	2018	①高山(樹村房)
2	信州豊南短期大学	図書館情報資源概論	2018	①高山(樹村房)
3	松本大学松商短期大学	図書館情報資源概論	2018	②藤田(学文社)
4	富山短期大学	図書館情報資源概論	2018	②藤田(学文社)
5	北陸学院大学短期大学部	図書館情報資源概論	2018	③馬場(日図協)
6	中部学院大学短期大学部	図書館情報資源概論	2017	記述なし
7	常葉大学短期大学部	図書館情報資源概論	2018	①高山(樹村房)
8	愛知学泉短期大学	図書館情報資源論	2018	④今(樹村房)
9	愛知大学短期大学部	図書館情報資源論	2018	特定のテキストは用いない

【表 1】 図書館司書課程(中部地方の短期大学)で使用している教科書

各短大の公開しているシラバス^(注 17)の記述を確認したところ使われている教科書は次の 4 冊であることが分かった。

- ①高山正也・平野英俊編集『図書館情報資源概論(現代図書館情報学シリーズ第 8 巻)』(樹村房 2012) ISBN:978-4-88367-208-0
- ②藤田岳久編著『図書館情報資源概論(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望 8)』(学文社 2016) ISBN:978-4-76202198-5
- ③馬場俊明著『図書館情報資源概論(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8 巻)』(日本図書館協会 2012) ISBN:978-4-8204-1217-5
- ④今まど子・小山憲司編著『図書館情報学基礎資料』(樹村房 2016) ISBN:978-4-88367-266-0

3.2 教科書の記述

各教科書においてフリーペーパーに関する記述を確認できたのは次の通りである。

- ①高山(樹村房)には、31p にミニコミ紙や各種のフリーペーパー、パンフレット、小冊子、ファイル資料の記述がある。
- ②藤田(学文社)には、21p にパンフレットと小冊子の記述がある。
- ③馬場(日図協)には、45p にパンフレットと小冊子、46p にインフォメーション・ファイル資料、107p に地元のコミュニティペーパーの記述がある。

④今（樹村房）には、87p にインフォメーションファイル、117p にパンフレット、119p にファイル資料の記述がある。

愛知大学短期大学部のように、教科書だけでなく配布資料で対応するケースも考えられるので、一概には言えないが、フリーペーパーに関する記述は少なく、授業中に取り上げられるケースはまれだと思われる。そういった意味では、高山（樹村房）に記述があることは、特筆すべきことである。

3.3 教科書以外の記述

一方、教科書とは別に図書館情報資源概論に関する新刊を確認してみた。2018 年には以下の 3 冊が出版された。それぞれ記述を確認しておく。

①宮沢厚雄著『図書館情報資源概論 新訂第 4 版』

（理想社 2018）ISBN: 978-4-650-01093-0

28p にファイル資料としてパンフレット・リーフレット、100p にフリーマガジン（無料誌）、101p にフリーペーパーの記述がある。さらには、広告ページの割引クーポン券について読者プレゼントの視点から説明しているページ（100p）もある。

今回は新訂第 4 版であるが、第 1 版（2010）、改訂版（2012）には、パンフレット・リーフレット、フリーマガジン、フリーペーパー、広告ページの割引クーポン券の記述はすでにある。全訂第 3 版（2015）では、フリーマガジンの表記後に（無料誌）を付け加える修正が施されている。

②藤原是明編著『図書館情報資源概論:人を育てる情報資源のとらえかた（講座・図書館情報学）』（ミネルヴァ書房 2018）ISBN: 978-4-623-08395-4

地域資料の章で、83p に小冊子類（パンフレットなど）、84p に地域のコミュニティペーパー、92p にパンフレット類など記述がある。中でも地域資料の入手方法として 90p にインターネットオークション^{（注 18）}の記述がある点は見逃せない。

③馬場俊明著『図書館情報資源概論 新訂版（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 8 巻）』

（日本図書館協会 2018）ISBN: 978-4-8204-1808-5

前述の新訂版ではあるが、念のため確認している。45p にパンフレットと小冊子、46p にインフォメーション・ファイル資料、107p に地元のコミュニティペーパーの記述がある。

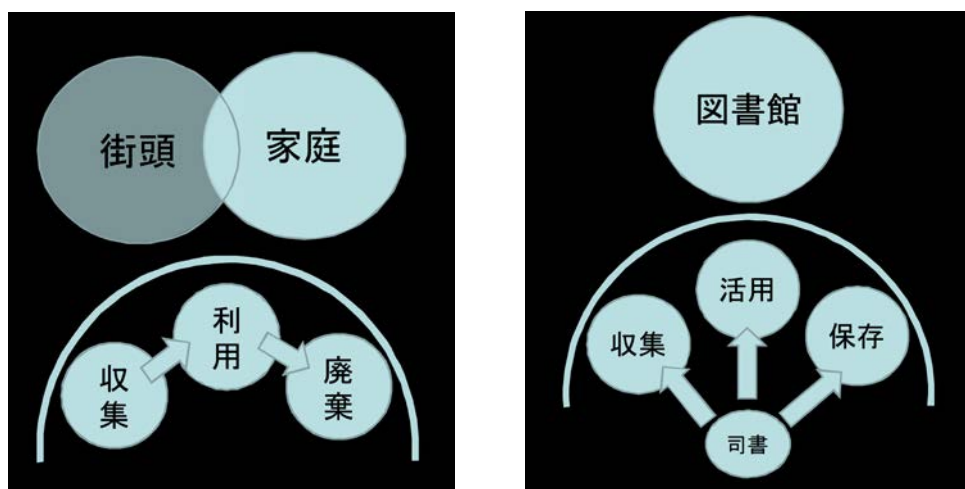
フリーペーパーについての記述が少ない点は、教科書と同様ではあるが、宮沢（理想社）や藤原（ミネルヴァ）のように積極的な記述が見られる図書もあるため、今後教科書に採用されることで、図書館司書課程への影響を及ぼすことも考えられる。筆者としては、教科書だからこそフリーペーパーの記述を大いに推進すべきと考える。

4. フリーペーパーの活用と保存についての考察

図書館のコレクションとは「図書」のことであるという一般の認識は、以前と比べれば変化^(注19)して来ている。それに呼応するように、公共図書館における「図書」以外の資料、特にフリーペーパーの受け入れ状況も増加傾向にある。それにもかかわらず、図書館司書課程の世界では、前節で記したようにフリーペーパーに関する議論はあまりにも少ない。

また、資料活用の観点から言えば、公共図書館だけではなく、学校図書館の状況についても考えたい。司書課程の教科書どおりであれば、学校図書館では入手したフリーペーパーは調べ学習や地域資料として利用しやすくカテゴリー別に保存されているはずである。学校図書館法第2条によれば、「図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料を収集し、整理し、及び保存」しているのが学校図書館である。しかしながら、実態としてはその多くが「図書」中心で成り立っている。理由の一つとして教科書を唯一の教材として、教師が一方的に教え込む教育方法が考えられる。その結果、教え込まれた知識の記憶定着度で成績が決まるため、子どもたちが多様な資料を活用し、能動的に学習する機会は奪われている。教科書と黒板とノートがあれば成立する教育スタイルでは、教科書以外は使わないため、学校図書館に対して多様な資料やメディアを要求する動きも起こらない。フリーペーパーもまた、学校図書館で要求されることもなく、もちろん保存されることもない。

資料保存の観点から言えば、最新号だけでなくバックナンバーの重要性も指摘しなければならない。稲垣^(注20)が言うように、「フリーペーパーは時代を映す史料としての役割は大きいですが、大量に読まれては捨てられ散逸している。どこかが主体になり、どのようにして収集、保存すべきかを考える時期に来ており、発行者や関連団体、大学の支援を仰ぎ、基金を設立して、少数のスタッフが運営する専門図書館を作るべき」との提言はもったものである。多種多様なフリーペーパーを専門とする図書館ができれば、短い期間で廃棄されることを常とするフリーペーパーも永年保存が可能であろう。これについては、「一般週刊誌」を永年保存する大宅壮一文庫^(注21)(東京都世田谷区)を参考にすることができる。



【図1】フリーペーパーの利用(これまで) 【図2】フリーペーパーの新たな利用

図1にあるように、今も昔もフリーペーパーは街頭で見つけ、街なかで消費するものである。それに加えて、図2にあるように、「図書館で見つけ、家で読む」や「読みたい人が図

書館で出会い、活用する」に移行する動きがここ数年で見られるようになった。あくまでも全てではなく部分的にはあるが図書館での利用や保存が定着して行くであろう。今後、図書館司書課程の学びがきっかけとなり、そのプロセスに影響を及ぼす必要性があることを筆者の提言とする。

5. おわりに

図書館司書課程では、特に図書館情報資源概論を含む資料論関連科目において、図書館の資料について学んでいる。いずれの教科書にも、扱う資料は「幅広く」「多様な」「網羅的」と記載しているが、図書館現場では「図書」中心のため、その記載と乖離する結果となっている。教科書だけでは足りない要素があるため、授業中に補助教材や配布資料を使う必要性は認められているところである。筆者もフリーペーパーに関する教材の開発を続けていくことで、授業内容がより一層効果的になることを目指す。

現時点では、フリーペーパーの存在意義はあるにもかかわらず、図書館でのコレクションとしての意義は広く認識されていないと言える。事態が好転する要因として未来の図書館司書への伝え方が挙げられる。司書課程担当である筆者としては、次世代の学びを支えるためにも、引き続きフリーペーパーとその動向に注視する。

(注)

1 福岡市東図書館のサイト：<http://fukuoka-east-library.com/>

2 「フリーペーパー魅力に再評価」『日本経済新聞 西部夕刊』（2016年10月12日 社会面）

3 日本生活情報紙協会（JAFNA）のサイト：<http://www.jafna.or.jp/>

4 稲垣（2008）14 p

5 図説（2018）35 p

6 用語（2004）「パンフレット」467 p

知識、思想、情報を他の人々に伝達するための、ページ数の少ない冊子体印刷物。ユネスコでは統計上「表紙を除いて、4ページから48ページの非定期刊行の印刷物」と定義している。紙表紙、仮綴じのものが多い。日本では100ページ未満のものをパンフレットとしている場合が多い。小冊子ともいう。

7 ソトコト（2018）55 p

8 d47（2014）23 p

『itona(いとな)』は、2012年に創刊した不定期発行の有料の雑誌である。現時点での最新号2015年9月発行のVol.4(通巻4号)では「山に富む県。」を特集している。

9 柿沼（1983）214 p と 223 p

10 国立国会図書館リサーチ・ナビ「フリーペーパー、ミニ・コミ、タウン誌」について最新情報を調べるサイト：

https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-100023.php 最新情報
を調べるサイトとして次の 2 点を紹介している。

① FREEPAPER NAVI (フリーペーパーナビ) のサイト : <http://www.freepapernavi.jp/>

② フリーペーパー・タウン誌ネットワーク Unyo! (うにょ) のサイト :
<http://www.u-nyo.com/>

11 『BonNo (ボンノ)』のサイト : <http://bonno-web.com/>

12 テラウチ (2016) 26 p

13 「10代と地域の懸け橋に」『北日本新聞』(2018年10月11日 24面)

14 奈良県立図書館の過去のイベント・展示のサイト :

<http://www.library.pref.nara.jp/gallery/2797>

15 「図書館づくりは市民と イベント・資料収集に力」『朝日新聞 山口朝刊』(2017年5月22日 27面)

16 飯野 (2017) 402p

17 文部科学省の「司書養成科目開講大学一覧」(2018年4月1日現在)のサイト :

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/gakugei/shisyo/04040502.htm

203 大学の内訳は、4年制大学 148校、短期大学(部) 55大学である。

18 中部地方の9短大とそのシラバスは次のとおり公開されている。

上田女子短期大学(長野県上田市)のサイト :

<http://www.uedawjc.ac.jp/study/culture/syllabus.html>

信州豊南短期大学(長野県上伊那郡辰野町)のサイト :

https://www.honan.ac.jp/department/communication/index_2.php?scroll-to=section01

https://www.honan.ac.jp/about/disclosure/index_4.php

松本大学松商短期大学(長野県松本市)のサイト :

https://www.matsumoto-u.ac.jp/introduction/information/information_04.php#tabNav

富山短期大学(富山県富山市)のサイト :

<https://www.toyama-c.ac.jp/info/outline/edures.html>

北陸学院大学短期大学部(石川県金沢市)のサイト :

<http://www.hokurikugakuin.ac.jp/top/finance/>

中部学院大学短期大学部(岐阜県関市)のサイト :

https://www.chubu-gu.ac.jp/career/license_librarian/index.html

<https://portal.chubu-gu.ac.jp/camweb/top.do>

常葉大学短期大学部(静岡県静岡市)のサイト :

<https://portal.tokoha-jc.ac.jp/jc/slbsskgr.do>

愛知学泉短期大学(愛知県岡崎市)のサイト :

https://www.gakusen.ac.jp/t/zaigakusei/syllabus_design.html#sogo_curribox05

愛知大学短期大学部（愛知県豊橋市）のサイト：

http://jcweb.aichi-u.ac.jp/study_car2.html

19 リンクアップ（2018）118p

ヤフオク！は、生活ポータルサイト Yahoo! JAPAN が提供する日本最大級のネットオークションサービスある。ヤフオク！で求められる商品のニーズは非常に多様であるが、入手が困難であったり、販売されていなかったりするものが特に求められている。

20 稲垣（2013）415 p

21 柿沼（2006）50 p

雑誌に関しては、大型書店でさえ短い期間で返品されるため、必要な雑誌を入手するためには、一期一会の覚悟を必要とする。入手できなかった雑誌も、近隣の公共図書館で収集・保管していれば、最新号とバックナンバーいずれも閲覧することができるだろう。しかし、読み捨てられる傾向の強い「一般週刊誌」は、短い期間で廃棄されるものがほとんどであり、個別タイトル毎に廃棄基準を定めているので、保存期間を過ぎると入手できないのが現状である。

（参考文献）

【図書】

『図説日本のメディア 新版』（2018 NKK出版）

リンクアップ著『今すぐ使えるかんたんヤフオク!とことん稼ぐ攻略ガイドブック』（2018 技術評論社）

d47 Museum 編「文化誌が街の意識を変える展」図録（2014 D & Department Project）

稲垣太郎『フリーペーパーの衝撃』（2008 集英社）

『最新図書館用語大辞典』（2004 柏書房）

【雑誌記事】

「リトルプレスカタログ 102」『ソトコト』（2018年1月号 株式会社 RR）

飯野顕志「開かれた仏教を目指す仏教者の試み：一若手僧侶の活動を事例に一」『集団力学』（第 34 巻 2017）

テラウチマサト「富山の魅力は「隠されている」」『Have a nice PHOTO!』（Vol.12 2016年3月）

稲垣太郎「フリーペーパー、新たな使命：大学講座に見る教育効果と資料保存の意義」『情報の科学と技術』（63巻10号 2013年10月）

柿沼隆志「図書館資料論Ⅱ 図書以外の資料（その9）」『大東文化大学紀要人文科学』（44号 2006年3月）

柿沼隆志「図書館資料論Ⅱ 図書以外の資料（その1）」『大東文化大学紀要人文科学』（36号 1998年3月）

柿沼隆志「図書館資料論 I」『大東文化大学紀要人文科学』（21号 1983年3月）

【新聞記事】

「フリースタイルな僧侶たち」が 50 号 仏教を若者の身近に 超宗派の若手グループが無料情報誌『毎日新聞 朝刊』（2018年7月7日 14面）

「飲酒運転撲滅へ遺族が無料誌 TOMO s 今日創刊」『西日本新聞 朝刊』（2017年5月25日 29面）

「超宗派の若手僧侶のフリーペーパーが人気」『本願寺新報』（2014年2月10日 8面）

「僧侶フリーペーパー審査員特別賞」『読売新聞 京都朝刊』（2014年1月21日 30面）

「フロントランナー 開かれた仏教をめざして発信」『朝日新聞 土曜版「be」』2011年8月6日

「若者よ仏教もいいぞ」『朝日新聞 京都朝刊』（2011年1月4日 25面）

「北九州市広報誌」雲のうえ編集委員大谷道子さん」『朝日新聞 福岡朝刊』（2008年11月16日 31面）

【インターネット】（参照日：2019年1月11日）

福岡市東図書館のサイト：<http://fukuoka-east-library.com/>

福岡市東図書館は2016年6月、JR千早駅前に新築オープンした香椎副都心公共施設「なみきスクエア」の1階に移転し新装開館した。2016年6月4日から2021年3月31日まで東図書館管理運営共同企業体（構成団体は、株式会社紀伊國屋書店と株式会社日比谷花壇）が指定管理者として運営。フリーペーパーの収集に協力したのは、東京のフリーペーパー専門店「ONLY FREE PAPER」である。

日本生活情報紙協会（JAFNA）のサイト：<http://www.jafna.or.jp/>

この定義は、2003年6月12日開催第28回理事会で承認されている。JAFNAは生活情報紙誌（フリーペーパー・フリーマガジン）の唯一の業界団体として生活情報紙誌の普及・発展を目指し、1998年4月1日に設立した。媒体環境が激変した昨今においてはその一定の役割を終えたと判断し、2018年10月31日をもって解散した。JAFNAはこれまでに『全国フリーペーパーガイド 2002』（2002）、『全国フリーペーパーガイド 2003』（2003）、『全国フリーペーパーガイド 平成15年度版』（2004）、『日本のフリーペーパー2006』（2006）、を発行している。

また、JAFNA以後は、メディアリサーチセンター株式会社が『雑誌新聞総かたろぐ別冊』として『全国フリーペーパーガイド：free paper & magazine 2010』（2010）、『全国フリーペーパーガイド 2018』（2018）を出版している。

FREEPAPER NAVI（フリーペーパーナビ）のサイト：<http://www.freepapernavi.jp/>

フリーペーパーがカテゴリー、刊行スケジュール、配布エリアなどから検索できる。各タイトルについて、配布エリア（例えば富山県）、読者ターゲット、発行部数、配布方法などを掲載している。掲載誌数 1,228 誌。

フリーペーパー・タウン誌ネットワーク Unyo！（うにょ）のサイト：
<http://www.u-nyo.com/>

日本全国・海外のフリーペーパー・タウン誌・ミニコミ誌がカテゴリー、配布エリア、配布方法などから検索できる。各タイトルについて、配布エリア（例えば富山県）、読者ターゲット、発行部数、判型、ページ数、配布方法などを掲載している。一部は「eBook」から閲覧可能。掲載誌数 850 誌。

一般社団法人日本地域情報振興協会（NiCoA）のサイト：<https://nicoanet.jp/>

日本全国のフリーペーパー・タウン誌がカテゴリー、配布エリア、読者ターゲットなどから検索できる。各タイトルについて、配布エリア（例えば富山県）、ターゲット、発行部数などを掲載している。掲載誌数 1,287 誌。また、全国各地のタウン誌やフリーペーパーに参加を募り、参加媒体を多彩な視点から審査し、評価の高い媒体を選定して表彰するイベントである日本タウン誌・フリーペーパー大賞を主催している。